

令和5年度第7回経営協議会議事要録

日 時 : 令和6年3月14日(木) 15:00 ~ 16:20

場 所 : 熊本大学事務局棟1階大会議室 ほか

出席者 : 小川 久雄、富澤 一仁、大谷 順、宇佐川 毅、水元 豊文、黒沼 一郎、
馬場 秀夫、赤木 由美、秋池 玲子、Oussouby Sacko、笠原 慶久、倉津 純一、
後藤 芳一、原 幸代子、村田 信一

欠席者 : 木下 統晴、田嶋 徹、本松 賢

陪 席 : 宮尾 千加子、渡辺 啓子、市川 聡夫、岸田 光代、前田 ひとみ、連川 貞弘、
尾池 雄一

議 題

1. 大学院自然科学教育部の改組について

議長から、大学院自然科学教育部における令和7年度の半導体・情報数理専攻（博士前期課程及び博士後期課程）の設置並びに既設専攻の改組を行うことについて審議願いたい旨提案があった。

次いで連川工学部長から、資料1に基づき、設置計画の概要について説明があり、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 本改組により、今後自然科学教育部の修士・博士課程が充実していくことに非常に期待が持てる。今後はTSMCを始め、半導体関連企業が熊本県内に進出しているため、学生の県内への就職が定着していくことが期待される。2点お伺いするが、新専攻設置に伴う定員の増加に対し指導教員は確保されているのか。また、修士課程に進学する学生への学費負担を軽減する取り組みはあるのか。

◆ 指導教員の確保については、国への概算要求等により教員の増員を行い、教育にあたるスタッフの充実化がなされている。

また、大学院生への学費負担については、国による学費負担を軽減するプロジェクトに加え、現在、文科省の大学フェローシップ創設事業等に採択されており、さらに本学においても経済的に困窮している学生を対象にした新たな奨学金制度や、工学系においては社会人学生への基金を活用した学費支援の実施についても決定している。このように、新組織の設置に併せて、学生の教育・研究環境を整備する取り組みを進めているところである。

2. 国立大学法人熊本大学職員給与規則等の一部改正について

議長から、自己啓発等休業制度の導入等に伴う国立大学法人熊本大学職員給与規則等の一部改正について審議願いたい旨提案があった。

次いで水元理事から、資料2に基づき、改正の内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

3. 令和6年度予算編成の基本方針について

議長から、令和6年度予算編成の基本方針に基づき作成した令和6年度予算配分の方針及び予算について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料3及び追加資料に基づき、内容について説明があり、種々意見交換が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

(意見交換の概要は次のとおり。◇は委員からの質問・意見、◆はそれに対する回答等)

◇ 資料については前年度までと比べると分かりやすくなった印象であり、全体像は理解できた。収入を増やす努力をどの程度行うかが重要であると考えているが、大卒については運営交付金で既に決まっているという説明では議論が難しいように思う。

例えば、外部資金の獲得や人件費の増加が見込まれる中で、半導体関連事業にどの程度戦略的に予算を費やすか等を説明いただくと理解できる。

◆ 令和7年度に獲得を目指す補助金については、改めて次年度の本会議においてお示ししたい。

◇ 熊本大学は全国から、半導体関連事業について、どのような高等教育が行われるか注目されている。半導体関連の教育を担う人材が十分に措置されているか、どのようなレベルの人材を熊本大学で育成するのか、といった点は、我々学外委員も把握できていないように感じるため、そのようなメッセージを本会議において提示いただければと思う。

また、競争的資金の獲得額や、大学入試における志願状況など、他大学と比較することで、良い指標については熊本大学に対し今後期待する気持ちも高まるのではないかと。

◆ 半導体分野における人材育成のレベルは、修士レベルを想定している。今回の改組により修士課程の定員を70名増員しているため、ボリュームゾーンとなる当該課程の修了者が就職時において中心となり得ると考えている。

◇ 博士後期課程については重視しないのか。現在、全国的に当該課程への進学者数が減少している問題があるが、例えば、関連企業からの出資による奨学金制度を創設し、学費を負担することで人材の充実化を図り、それらの人材が国内外で活躍していくことで、大学全体が抱えている問題解決への糸口になり得るのではないかと。このようなモデルケースを作ることは戦略的にも好ましいと考える。当該修士課程についても、定員の増員だけではなく、いかに他大学と差別化を図っているかを打ち出せるとよろしいのではないかと。

◆ 工学部への進学者が思うように増えないことを受け、情報融合学環では理系・文系出身を問わず学生を募集している。加えて、博士課程においては半導体・情報数理専攻を新設し、当該専攻は既に関連企業に就職している者からの進学も想定している。このような教育・研究環境を提供することについては、地の利があると考えているが、いずれにしても、理工系の志願者の獲得については、ここ数年における課題として認識した上で、その対応に取り組んでいるところである。

また、情報融合学環においては、学校推薦型選抜における募集人員の半数以上を女子枠としている。男女が共に学びあい、様々な課題解決を行い、半導体の産業自体を支えることを一つの目的としている。

4. 令和6事業年度長期借入金の借入れ及び償還計画に係る認可申請について

議長から、令和6事業年度における長期借入金の借入れ及び償還計画について審議願いたい旨提案があった。

次いで黒沼理事から、資料4-1・4-2に基づき、内容について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

報告連絡

1. 寄附講座の更新について

議長から、資料5に基づき、次のとおり寄附講座の更新について報告があった。

- 病院「脳血管障害先端医療寄附講座」の設置期間更新

更新期間：令和6年4月1日～令和11年3月31日（5年間の期間更新）

寄附者：医療法人財団聖十字会

2. 共同研究講座等の設置及び更新について

議長から、資料6に基づき、次のとおり共同研究講座等の設置及び更新について報告があった。

- 大学院生命科学研究部附属グローバル天然物科学研究センター

「製剤応用食品技術共同研究講座」の設置

設置期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年間）

共同研究者：トイメディカル株式会社

- 国際先端医学研究機構「造血幹細胞工学共同研究講座」の設置

設置期間：令和6年4月1日～令和11年3月31日（5年間）

共同研究者：一般財団法人化学及血清療法研究所

- 大学院生命科学研究部「脳・心血管機能解析学共同研究講座」の設置

設置期間：令和6年4月1日～令和9年3月31日（3年間）

共同研究者：イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社

- 大学院生命科学研究部「画像動態応用医学共同研究講座」の設置期間更新

更新期間：令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年間の期間更新）

共同研究者：キャノンメディカルシステムズ株式会社

3. 令和6年度経営協議会開催日等について

議長から、資料7に基づき、令和6年度の本会議の開催日等について報告があった。

以上

- 次回開催：令和6年6月20日（木）

<配布資料>

- 資料 1 大学院自然科学教育部の改組について（概要）ほか
- 資料 2 就業規則関係規則の改正一覧（予定）ほか
- 資料 3 令和6年度熊本大学予算編成の方針（案）ほか
- 資料 4-1 令和6事業年度長期借入金の借入れ及び償還計画（案）
- 資料 4-2 第3期～第4期中期目標期間における財投借入状況について
- 資料 5 寄附講座の更新について
- 資料 6 共同研究講座等の設置及び更新について
- 資料 7 令和6年度経営協議会開催日等
- 追加資料1 令和5年度の主な補助事業について
- 追加資料2 本学予算の財源構成と使途の決定方法